



10月23日～26日開催の「第14回全日本ホルスタイン共進会」より

- 1 ページ 表紙
- 2～3 ページ 平成27年度上半期事業実績
- 4 ページ 第14回全日本ホルスタイン共進会
- 5 ページ 東西南北（各支所）
- 6～7 ページ 『フレッシュウーマン』紹介!!
- 8 ページ 部課だより（業務部）
- 9 ページ 部課だより（生乳販売課）
- 10 ページ 理事会だより、お知らせ、市場成績

「キャラクター^{まみ}笑味ちゃん」



みんなのよい食プロジェクト



平成27年度上半期事業実績

上半期の各部門を合わせた事業総利益は4億2548万円(計画比107・9%)となり、事業利益においては計画差で3千406万円増の実績となりました。

また、本所移転に伴う借地権代の入金や系統外所有株式の売却により、事業外収入・特別利益においても計画を大きく上回り、税引前当期利益は5億7992万円となりました。

下半期も2カ月を過ぎようとしておりますが、各事業、計画達成に向け事業推進してまいりますので、今後とも皆様方のご理解ご協力をお願い申し上げます、以下に各部門の上半期実績について概況を報告いたします。

一、生乳販売

① 生産状況等について

4月の生産状況は計画並みの100・6%でスタートしましたが、大規模酪農家の生産量が前年比113%と大きく上回り、さらに暑熱の影響も少なく堅調な生産が続き生産量11万8871t(前年比106・8%、計画比104・0%)と計画を上回る実績となりました。生乳販売高は、関東生乳販連の飲用牛乳向け販売数量が前年比102・3%と増加し加工率が0・61%下回ったことに加え、飲用向け・発酵向け・生クリーム

向けが3円、特定乳製品向けが2円、チーズ向けが5円の値上も重なり132億8495万円(前年比109・9%、計画比104・5%)の実績となりました。

② 乳質について

乳脂肪率は、5月度に大きく前年を下回りましたがその後回復し、前年並みで推移しました。無脂肪乳固形率は4〜6月が前年並みの状況でしたが、7月から前年を下回る状況です。細胞数は前年を上回る状況が続いています。

また、生乳生産管理チェックシーアの定着化等により安全・安心への意識も高揚し上期の不良乳の発生はなく、前年を2件下回りました。

③ 奨励金について

需要期出荷奨励金は1億2465万円(前年比108・5%、計画比106・0%)で、需要期優良生乳出荷奨励金は該当率24・4%、3780万円(前年比126・0%、計画比100・2%)の実績でした。

④ 生乳計画生産について

上半期の生乳計画生産は、組合員の申告乳量(割当配分)比99・7%で、関東生乳販連計画生産目標数量の100・4%でした。

二、市乳販売事業

4月の乳価値上げに伴い牛乳価

格改定を実施し、同時に販売促進を強化し事業推進にあたりました。那須のこだわり牛乳・かましん牛乳等は、特売日の設定等で計画を上回る実績となりました。那須だいき牛乳・酪農牛乳は、帳合先との価格改定等の商談は順調でしたが、販売店においては価格値上げの影響や廉売牛乳との競合等で苦戦を強いられ売り上げが伸びず、計画を下回りました。

三、購買事業

上半期の飼料供給量は、想定以上の酪農中止及び飼料価格高騰による自給飼料利用増により濃厚飼料3万9270t(計画比98・2%)、粗飼料1万8233t(計画比94・9%)といずれも計画下回りました。

そのようなことから、利用量別奨励金も配合飼料1億307万円、粗飼料1532万円、TMR等708万円、総額で1億2548万円と計画を下回る実績となりました。

事業収支においては飼料供給量減の影響もありましたが、計画外の利用高配当等により9971万円(計画比103・9%)となりました。

四、酪農指導及び流通

良質乳生産を図るためバルクスクリーニング検査を実施し、その結果を基に改善指導に努めました。

また、飼料給与メニュー変更などの指導支援をはじめ、飼料基盤強化に向け良質自給飼料増産プロジェクトによる技術情報の提供を行いました。更に、当期も県北を中心に放射線物質の影響による牧草の給与前検査が必要となり、サンプル採取の巡回等を通し安全で安心な生乳生産に努めました。

補助事業関連については、クラスタ事業として畜産・酪農生産力強化緊急対策事業(136戸)及び畜産収益力強化緊急支援事業(78戸)の新規事業をはじめ、酪農生産基盤確保・強化緊急支援事業(246戸)を行いました。また、担い手育成支援として9月に婚活パーティーを開催し、その結果4組のカップルが成立しました。

酪農ヘルパー事業は、利用減の影響もあり計画を若干下回りました。(計画比99・2%)。次に、乳牛導入事業は北海道導入増により計画を上回りました。(計画比133・3%)。肉用化事業は更新出荷等でほぼ計画通りとなりました。預託事業は県内の申込み頭数が増えず、計画を若干下回りました。(計画比99・2%)

五、改良事業

凍結精液事業で、乳用牛精液はクラスタ事業により、性別別精液の利用が促進されたことから計画を上回りましたが、肉用牛精液は大口利用減により計画を下回りました。乳用牛及び肉用牛精液の合計では2万33本となりました。



(計画比97・7%)。受精卵販売は乳用牛精液と同様に、クラスター事業での性別別受精卵及び牛受精卵の供給により、大幅に計画を上回りました。(計画比610・0%)。登録業務では、血統登録証明書は自動登録5戸の新規加入及び全共に係る登録増により計画を上回り、その他証明書についても全共に係る検定成績の発行により計画を上回りました。登録事業総計では計画を上回りました。(計画比115・4%)牛群検定事業についてはお試し事業に5戸が参加し、新規加入促進及び成績活用の支援に努めました。また、第14回全共北海道大会への支援として、関係機関と連携し全共セミナーの開催をはじめ、県予選会への協力支援を行いました。

改良事業の収支については、事業利益で1177万円(計画比117・2%)でした。

六、診療事業

繁殖検診事業は、新規検診農家が5戸増えたことと、夏場の検診頻度を増やしたことで検診頭数が増え計画を上回りました。(計画比107・4%)乳房炎防除事業はバルクスクリーニング検査を宇都宮・県南支所は全戸で実施、那須高原支所では各地域、支部、班での取り組みが多く計画を上回りました。(計画比110・6%)しかし、個体乳検査は乳質に問題のある個体が把握できていることや、新規の搾乳立会が少なく計画

を下回りました。(計画比43・8%)受精卵移植事業の採卵は、ホルスタインの依頼が少なく計画を下回りました。(計画比81・8%)移植においては、補助事業によるIVF卵(体外受精卵)の移植が増加し計画を上回りました。(計画比109・4%)人工授精は、新規検診農家や検診時の同期化による授精が多く計画を上回りました。(計画比106・5%)診療等は、計画外の全共出品牛へのワクチン接種巡回により計画を大きく上回りました。(計画比181・7%)診療事業収支については、事業利益で1373万円(計画比115・0%)となりました。

平成27年上半期 予算実績比較表

(単位：千円)

項目	計画	実績	計画差	計画比(%)	
生乳販売	収益	14,247,786	14,878,455	630,669	104.4
	費用	13,956,959	14,568,244	611,285	104.4
	利益	290,827	310,211	19,384	106.7
市乳販売	収益	167,477	157,595	▲9,881	94.1
	費用	161,557	152,153	▲9,403	94.2
	利益	5,920	5,442	▲477	91.9
購買	収益	4,271,220	4,099,221	▲171,998	96.0
	費用	4,175,260	3,999,508	▲175,751	95.8
	利益	95,960	99,712	3,752	103.9
酪農指導	収益	88,576	93,057	4,481	105.1
	費用	103,114	105,602	2,488	102.4
	利益	▲14,538	▲12,545	1,992	-
流通	収益	163,899	183,611	19,712	112.0
	費用	163,323	182,890	19,567	112.0
	利益	576	720	144	125.0
改良	収益	74,243	109,577	35,334	147.6
	費用	64,191	97,798	33,607	152.4
	利益	10,052	11,779	1,727	117.2
診療	収益	19,342	21,215	1,873	109.7
	費用	7,402	7,481	79	101.1
	利益	11,940	13,733	1,793	115.0
牧場	収益	59,218	61,008	1,790	103.0
	費用	65,666	64,581	▲1,084	98.3
	利益	▲6,448	▲3,572	2,875	-
事業総収益	19,091,761	19,603,742	511,981	102.7	
事業総費用	18,697,472	19,178,261	480,789	102.6	
事業総利益	394,289	425,481	31,192	107.9	
事業管理費	372,407	369,531	▲2,875	99.2	
事業利益	21,882	55,950	34,068	255.7	
事業外収入	24,271	59,252	34,981	244.1	
事業外費用	5,328	5,389	61	101.1	
経常利益	40,825	109,813	68,988	269.0	
特別利益	5,000	484,265	479,265	9,685.3	
特別損失	24,090	14,159	▲9,930	58.8	
税引前当期利益	21,735	579,920	558,185	2,668.1	

同 酪農とちぎアグリサポート予算実績比較表

(単位：千円)

項目	計画	実績	計画差	計画比(%)
収益	29,970	34,511	4,541	115.2
費用	28,020	29,624	1,604	105.7
利益	1,950	4,886	2,936	250.6

七、牧場事業

牧場事業は、(株)酪農とちぎアグリサポートに牧場の作業全般を委託し、牧場事業の効率的な事業に努めております。飼養管理、衛生管理を徹底し発育向上に努めた結果、授精月齢の短縮が図られています。(平均24・7ヶ月齢分娩) 預託頭数は23,600頭(前年比106・4%)、計画比103・7%)となりました。収支については、小林放牧場と土上平放牧場を利用し、効率的な運営ができ、事業利益は計画を上回ることができました。なお、乳用雌子牛の買取り育成販売事業については、初妊牛として1頭を販売、現在2頭を飼養して

おり初妊牛で販売します。

八、経営管理

事業管理費は、ほぼ計画通りに推移し3億6953万円(計画比99・2%)の実績でした。

酪農とちぎアグリサポート

受託事業においては、212・7haを受託し、計画比125・1%となりました。人的支援については、要望が少なく444時間(計画比69・4%)となりました。収支については、事業利益4886千円(計画比250・6%)と計画を上回る実績となりました。



北海道で

第14回全日本ホルスタイン共進会・
第7回全日本ジャージー共進会が開催！

10月23日から26日までの4日間、

北海道勇払郡安平町早来「北海道ホルスタイン共進会場」にて標記共進会が10年ぶりに執り行われました。42都道府県からホルスタイン種344頭、ジャージー種30頭の出品があり、本県からは代表牛として21頭（酪農とちぎ15頭、栃酪6頭）が出品し、各牛健闘しました。

第8部で那須塩原市 高塩浩典さん所有の「ハーネスファーム デイストライ ロイヤル」が優等賞5席を獲得し、第10部で日光市 植木靖さん所有「プラントツリー HR デンプシー エストリール」が優等賞2席（部のリザーブチャンピオン）を獲得、12部で茂木町 羽石智昭さん所有の「ウイング チャンピールング」が優等賞5席を獲得したほか、一等賞9頭という素晴らしい結果となりました。

出品者、関係者の皆様、大変お疲れ様でした。そして応援頂きました沢山の方々はこの場をお借りして感謝申し上げます。

一覧については次のとおりです。

部	出品者名	賞	席	部	出品者名	賞	席
1	那須拓陽高校	1等賞	10席	8	高塩 浩典	優等賞	5席
2	大関 悠太	2等賞	11席		那須拓陽高校	1等賞	1席
3	室井 忠則	1等賞	1席	10	植木 靖	優等賞	2席
	人見 信	1等賞	9席		駒場 靖史	1等賞	4席
4	鹿沼南高校	2等賞	15席	11	和泉 正行	1等賞	6席
	真岡北陵高校	2等賞	6席		鷹箸 稔	2等賞	5席
5	永森 洋一	2等賞	9席	12	羽石 智昭	優等賞	5席
	眞嶋 大輔	1等賞	3席		鷹箸 稔	1等賞	1席
6	和田 泰	1等賞	3席	13	和田 泰	2等賞	3席
	眞嶋 大輔	2等賞	1席		18	見山 貴生	2等賞
7	SH08 (小松俊介)	2等賞	15席				



東西南北

那須高原支所

女性会那須支部研修会開催

女性会那須支部（清水恵美子支部長）では、11月4日～5日、福島方面への研修旅行を行いました。

まず、バス車中で「移行期管理」について研修を行い、分岐前後管理の重要性について学びました。郡山市内で昼食を済ませ、更に北上し、あぶくま洞を訪問しました。洞窟内に入ると、ファンタジーの世界に引き込まれ、8千万年かけて創られた自然の造形美を堪能しました。

沿岸へ移動し、美空ひばりの歌碑で知られる塩野崎の灯台に上りました。綺麗な夕日に染まる海はとても穏やかで心癒されました。



周辺は災害復興のため、人工の高台と堤防の工事中で、被災に遭われた方々が1日でも早く、自分の故

郷に戻れる日が来ることを願いました。

宿泊先の「スパリゾートハワイアンズ」に到着し、宴会を楽しんだ後、メインイベントである「ポリネシアン・グランドステージ」を観覧しました。華麗なフラガールの演技に魅了され、終盤の「フラガール〜虹を〜」の復興ソングに合わせて踊る姿には、心打たれました。

2日目の午前、「いわき・ら・ら・ミュウ」を訪問しました。正面には市場が広がり、旬の海産物がずらりと並び、皆さん家族や親戚のために、新鮮な魚や貝を沢山購入されていました。猪苗代のホテルにて、優雅な洋風ランチコースを頂いた後、五色沼を散策しました。沼はエメラルド色に染まり、綺麗な紅葉も観ることができました。散策後、福島の名酒造である栄川酒造を訪問し、酒造行程について学び、試飲をしながら好みの酒を購入していました。特に、米麴の甘酒は砂糖を使用しておらず、米本来の甘さを感じることが出来ました。

お腹も心も満たされたところで、紅葉の磐梯山、猪苗代湖の景色とお別れをし、那須に戻りました。車中終始賑やかで、日々の忙しい作業のつかのまの時間でありましたが、気分転換となる充実した研修旅行となりました。

宇都宮支所

宇都宮市酪農組合農林業祭参加！

ろまんちっく村で開催された「宇都宮市農林業祭」に、今年も宇都宮市酪農組合が参加しました。

11月14日～15日の2日間に渡り、宇都宮市酪農組合員（駒場久組合長）が中心となって、牛乳の試飲を中心とした幅広い内容でイベントに参加しました。また今年も、栃木県酪農青年女性会議と合同で酪農に対する理解を求めるチラシとエコバックの配布も酪青女の役員さんで行いました。

天候には恵まれませんでしたが、子牛とのふれあい・お絵かきコーナーでも、多くの親子連れに酪農の魅力に触れていただくことができました。酪農が地元の産業の一つだと印象づけられる良い機会だったのではないのでしょうか。また、お子さんには、幼き日の思い出の一場面として心に残ってくれたら嬉しいですね。そして、来場頂いた方々があの祭りでお祭りで飲んだ牛乳



『おいしかったなあ』と思い出し、お買い物の際に普段よりも乳製品売り場を意識して商品を手にとって頂けたらと希望しつつ催しを終えました。

県南支所

青年部芳賀支部視察研修会開催

青年部芳賀支部（増山勝浩支部長）は、視察研修会として、去る10月24日～25日に参加者10名で北海道安平町で開催された「第14回全日本ホルスタイン共進会」を視察しました。会場到着後は栃木村に挨拶を済ませ、出品者で芳賀支部員である羽石啓介氏（茂木町）を激励しました。本人は緊張した面持ちでしたが、激励の甲斐もあり、第12部（経産4歳以上5歳未満）では羽石氏出品の「ウイング チャンピオンング」が見事、優等賞5席に入賞いたしました。羽石さん、本当におめでとうございます。

今回の視察研修は雪の舞う生憎の天気となりましたが、支部員間のよりいっそうの親睦を図ることができ、有意義な研修会となりました。



『フレッシュウーマン』紹介！

今回、公益財団法人栃木県農業振興公社主催の「平成27年度栃木県青年農業者海外派遣研修」に参加した渡邊ゆずはさん25歳（那須高原支所組合員で渡邊透さんの後継者）の研修報告をご紹介します。

栃木県青年農業者海外派遣研修について

（2015年9月28日～10月7日）

渡邊 ゆずは

●はじめに

今回の研修では、オランダ・ドイツ・フランスの3か国を10日間まわってきた。そのうち、酪農をしている農家には2か所行くことができた。オランダのチーズを作っている酪農家と、ドイツのドッテンフェルダーホフ農場である。

●オランダの酪農家

ペニングス一家のグリーンハーフトで営まれている酪農家。34haの草地があり、乳牛が55頭、乾乳牛・仔牛が40頭、その他、種牛・肉牛・羊がいる。肉牛は直売し、羊には堤防の草を食べてもらっている。牛よりも羊の方が軽いので堤防を壊さない。ロール作りは外注。チーズ工房もあり、併設した店で売っている。他の店同士で品を交換し合い、自家製品以外も売っている。都市部の農家ではコストが高いため、カヌーなどで副収入を得ている。

平均8400ℓ／1頭で、タンパク質3・5%、脂肪4・4%である。現在は4頭ダブルのヘリン



渡邊 ゆずは さん

ボンパーラーで、朝4時30分夕方4時の1日2回搾乳だが、来年搾乳ロボットを導入予定で1日3回搾乳するそうだ。

未経産牛は種牛で、経産牛は人工授精で種付けを行う。冬は牛舎に入るの、その時に積極的に人工授精をする。常時ではないが、性別別精液を使うこともある。

7000ℓ／年以下の場合、F1をつける。初産牛は産んでから最初の3カ月のデータをもとに種を決める。初産牛の仔牛は売りに出す。全部の仔牛を残すと負担が大きいからだそうだ。

2015年、乳量の上限が無くなった。飼育数が増えたが、糞尿も増えた。だが、糞尿の規制はまある。糞尿処理のコストを考えると、頭数を増やしすぎること



できないようだ。10〜15ユーロを払い球根農家へ堆肥の輸送をしている。

大切なのは水路をきれいにし、糞尿を適切に処理することだという。

病気に対しては、外部から入れないようにしてリスクを抑えると言っていた。売りに出す仔牛と育てる仔牛を分けて飼育し、業者は防護服を着用するという。また、IBR予防接種を行っている。しかし、消毒層などは見当たらず、チーズ工房にも牛舎に入った靴でそのまま入っていた。研修者等外部の人間に対しブーツカバー等を使用させている様子もなかった。



チーズに黄色味を出すため、15kg／1頭のニンジンを食べさせている。ニンジンは工場の余りや近隣の農家から仕入れている。1500ℓ入る水槽に1300ℓくらい生乳を入れて作る。ホエーは砂糖工場の残渣と一緒に餌にしている。

現農場主は2010年に牧場を両親から継ぎ、3代目になるという。父から融資をうけ、毎月返済しながら経営しているらしい。

視察に行ったときには放牧している様子を見ることができた。しかし残念ながら、牛舎内は屋根の葺き替え工事をしており、見ることはできなかった。屋根にはソーラーパネルをつけるらしい。

●ドイツの

ドッテンフェルダーホフ農場

家畜（乳牛・豚・鶏）の飼育や作物栽培、チーズやパンの製造、農業学校、品種改良や餌の研究、カフェやショップなど様々なことをしているデメターの認証を受けている農場。200haある。

バイオダイナミック農法を取り入れており、農場を1つの生物と考え、自立的に保つことを目標としている。そのため、経済的ではないが周囲の生態系への配慮や動物福祉に秀でていいる。ここでは、餌作りから糞尿の処理まで全てを農場の中で行っている。現在は約150人が働いており、出資者のサポートとともに運営している。

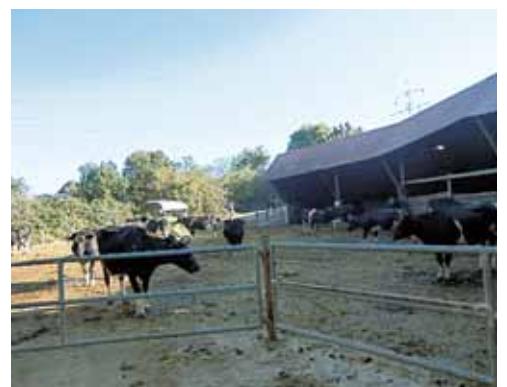
農業のほかにも、パンやケーキの製造、造園、チーズについて学びに来ていた人たちがいる。丁度日本からパンを学びに来ていた人がおり、話をすることができた。また、近隣の農家見習いの50%がここで働いているという。

乳牛の角は切らない。角はコミュニケーションの手段であり、脳と直結しているので切らない方が知能が高いと考えているからである。また、個体は日本の乳牛より小さい。60年かけて繁殖させ、30年くらい人工授精をしていないため、古い種類のここにしかない系統だという。種牛は現在2頭いる。平均8歳まで生き、乳量は6300

ℓで、平均より2000ℓくらい少ないそうだ。7時と17時に畜舎に入れる。仔牛は最初の2週間母牛につけ、その後3カ月は2回／1日母牛に会わせる。

飼養管理する上では、まずは環境に与える影響を考える。耕作においても経済性を考えず、土地を観察して土壌・気候等の基本条件を考え、できるだけ負荷を与えない方法を選択している。

ここでの消費者は、自然に対する意識があり、金銭的に余裕のある人々が多い。また、作物に土が付着している、形が整っていない、等の商品は買い控える傾向があるという。



●最後に

今回の研修では、酪農家のほかイチゴやトマトのハウス農家、小麦やジャガイモなどの露地栽培農家、花市場やクラインガルテンなど、様々な所を視察することができた。日本とは違った文化・風習に触れたことは、良い経験となったと思う。

●謝辞

今回お世話になった各関係機関の皆様にはとても感謝しております。貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございます。また、今回の経験を活かせるよう努力していきたいと思えます。



平成27年度 「後継牛安定確保対策事業」上半期取り纏めについて

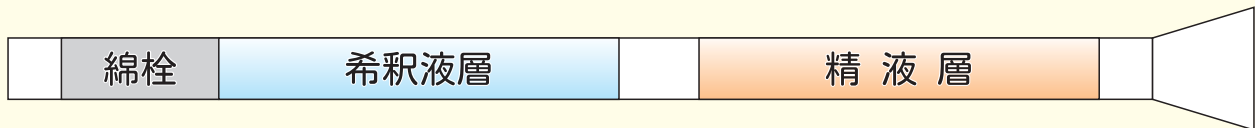
上半期の取り纏め状況について現時点での結果をご報告します。

報告本数764本（未経産352本、経産牛412本）、受胎率は未経産牛45.8%、経産牛31.4%という結果でした。まだまだサンプルが少なく妊鑑不明の牛も多いため今後の変動に期待ですが、やはり経産牛の受胎率は低いことから、未経産牛への授精をお勧めします。下半期の取り纏めを平成28年4月に行いますので、今回未提出の精液につきましては下期に報告願います。

なお、今年度につきましてはクラスター関連事業「畜産・酪農生産力強化緊急対策事業」で性判別精液をお配りしているところですが、本事業と併用が可能です。クラスター事業参加者におかれましては、下半期に本事業へ自動的に繰り入れとなりますので予めご承知おき願います。

二層式ストロー（FCMax）について

家畜改良事業団がこれまで独自に開発・提供してきた「二層式ストロー FCMax」が今年の4月末に晴れて特許を取得（特許第5738314号）、27年7月に商標登録をしましたのでご紹介いたします。



この二層式ストローは、精液の封入方法を従来の一層から二層に変更したもので綿栓側が精子の品質を良好に保つ物質、精子のエネルギー源となる物質を添加した希积液を用いて凍結されたもので、受胎率向上に有効な技術として開発されてきました。

従来の一層式ストローに対して受胎率が約6%向上することが確認され、事業団の性判別精液「Sort90」はこの二層式で生産することで受胎率の向上に寄与してきました。

以下は使用上の注意点です。

☆精液の融解は38℃の温湯で15秒間を厳守してください。

→-40℃~-15℃の有害温度域（精子にダメージを与える）を素早く通過させるためです。

☆「FCMax」は振らずに注入器にセットしてください。

→精子が綿栓に吸着することを防ぐため、振らないようにお奨めしています。

今回は受胎率の向上が期待される「FCMax」の紹介ですが、「マニュアルに沿った融解手順を守ること」、「授精適期を守ること」、「繁殖能力の高い雌牛に授精すること」など、基本的なことですが、確実に受胎率を向上させるためには適切な条件を整えることが大切になってきます。空胎日数が伸びてしまっは性判別精液のメリットも薄れてきます。

安定的に後継牛を保持しながら、効率良く副産物を得て生産基盤強化を図ることが性判別精液の最大のメリットであることから、その特性を理解の上、引き続きご活用下さい。

※「FCMax」は和牛を含む一部の通常精液でも生産しておりますので併せてご承知おき下さい。

生乳販売課

平成27年10月度の組合生乳生産量は、昨年同月乳量と比較し105・0%（1万9431t）と、48ヶ月連続し前年を上回る堅調な生産状況です。また、累計の受入乳量は、那須高原支所8万9574t（前年比110・4%）宇都宮支所1万8113t（前年比98・5%）、県南支所3万0615t（前年比101・2%）、合計で13万8301t（前年比106・6%）となり、那須高原支所の生産量が大きく前年を上回りましたが、宇都宮支所においては、前年を下回る状況が続いております。

出荷者数は、前年同月より13戸減の463戸（内、学校は2校）でした。

また、10月度の年平均乳質は、脂肪率、無脂固形分率については前年を上回りました。細胞数は今年1月から前年を上回る状況が続いております。

尚、10月迄の累計不合格件数は771件となり、前年（555件）を大きく上回り平成24年並みの発生件数となりました。

関東生乳販連の10月総受託乳量は、前年比100・0%（約17t減少）、累計では100・7%、4252t増の状況です。

10月の用途別の販売数量は、飲用向けが前年比101・0%と前年を上回り、加工率は3・83%と前年を下回る値です。10月迄の累計値についても、飲用向けが102・

1%と前年度を上回り、加工率についても8・02%と前年を下回る状況です。

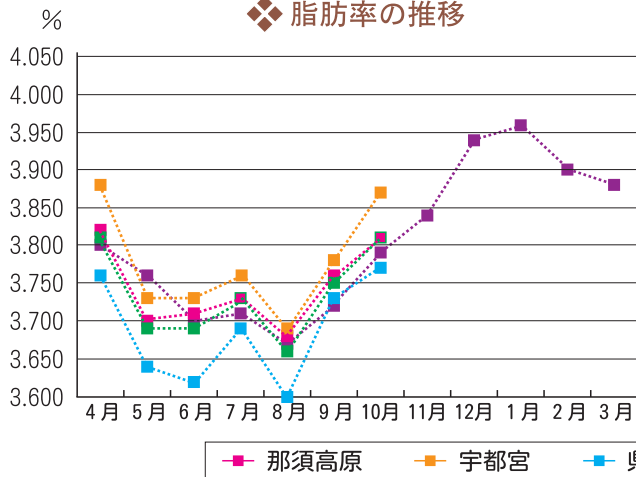
また、全国の生産量（10月現在）は前年比100・7%と5ヶ月連続で前年を上回りました。主に北海道102・2%、九州生乳販連100・6%と主産地の増加が影響し増加になりましたが、都府県は98・9%と依然として減少が続く状況です。

尚、平成27年10月の生産量・乳質、関東生乳販連の用途別販売数量は別表のとおりとなっております。

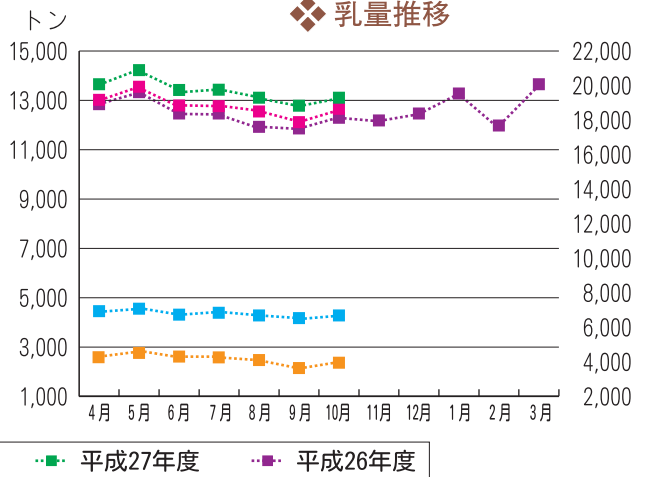
関東生乳販連用途別販売数量 (単位: kg・%)

用途	10月実績	前年実績	前年比	累計実績	前年同期実績	前年比
飲用牛乳向け	71,978,261	71,279,903	101.0	493,944,112	483,644,707	102.1
(うち学校向け)	12,885,649	12,847,026	100.3	69,097,111	69,414,945	99.5
はっ酵乳向け	12,827,894	13,309,533	96.4	91,373,313	93,912,123	97.3
特定乳製品向け(加工)	3,440,578	3,601,881	95.5	52,174,269	55,365,329	94.2
(うち委託加工向け)	0	0	-	0	0	-
生クリーム向け	1,513,681	1,571,398	96.3	12,242,247	12,613,212	97.1
チーズ向け	63,120	77,975	80.9	467,188	414,140	112.8
全乳哺育向け	0	0	-	0	0	-
総受託乳量	89,823,534	89,840,690	100.0	650,201,129	645,949,511	100.7
加工比率	3.83	4.01	-	8.02	8.57	-

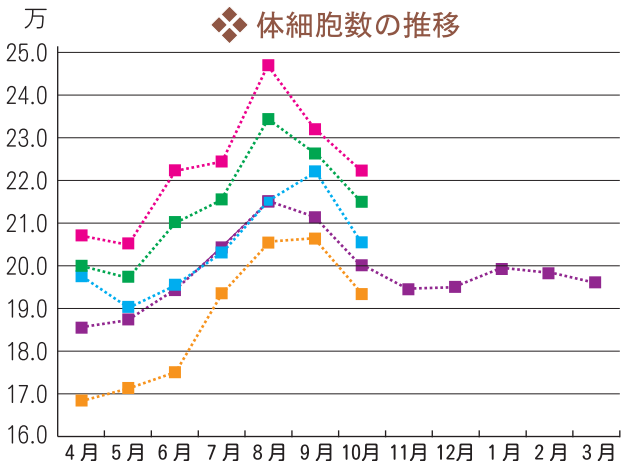
◆ 脂肪率の推移



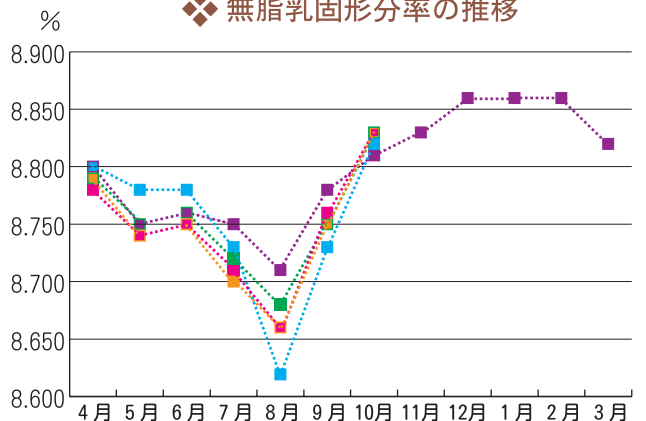
◆ 乳量推移



◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分率の推移



理事会だより

8月度理事会（8月31日）

報告事項

- (一) 業務経過報告について
- (二) 組合資金貸付について
- (三) 組合プール乳価について
- (四) 東京電力原発事故農畜産物損害賠償について
- (五) 婚活支援事業について
- (六) 関東生乳販連情報について

協議事項

- (一) 7月度事業実績について
- (二) 江崎グリコ・栃木明治株式会社売却活用策について
- (三) 第14回通常総会時要望事項に対する見解について
- (四) 平成26年度決算監査報告に対する回答（案）について
- (五) 平成27年度配合飼料等特別奨励措置について
- (六) 組合購買利用推進女性研修会について
- (七) ふれあい牧場に係る放牧場整備について
- (八) 旧栃木事業所及び本所飼料倉庫施設整備に係る施主代行について
- (九) 固定資産の取得について

9月度理事会（9月29日）

報告事項

- (一) 業務経過報告について

- (一) 組合資金貸付について
- (二) 旧栃木事業所及び本所飼料倉庫施設整備に係る入札結果について

- (三) 組合プール乳価について
- (四) 東京電力原発事故農畜産物損害賠償について

- (五) 生乳生産管理チェックシート記帳・記録状況について
- (六) 平成27年9月関東・東北豪雨被害状況について

- (七) 第14回全日本ホルスタイン共進会栃木県予選会結果について
- (八) 関東生乳販連情報について

協議事項

- (一) 8月度事業実績について
- (二) 固定資産の取得について
- (三) 組合と理事との契約について

10月度理事会（10月30日）

報告事項

- (一) 業務経過報告について
- (二) 組合資金貸付について
- (三) 組合プール乳価について
- (四) 東京電力原発事故農畜産物損害賠償について
- (五) 子会社等の上半期事業実績について
- (六) 第14回全日本ホルスタイン共進会結果について
- (七) 関東生乳販連情報について

協議事項

- (一) 9月度及び上半期事業実績について
- (二) 組合と理事との契約について

お知らせ

2016 in かぬま

「とちぎ花フェスタ」の開催

毎年栃木県内で開催されている「とちぎ花フェスタ」が平成28年は、2月27日(土)〜29日(月)に鹿沼市花木センターで開催されます。

とちぎ花フェスタは、「花と緑にあふれるふるさととちぎ」を実現するため県内各地で生産される花を一堂に集めた花の総合イベントという事で、一足先に春を感じてみませんか！

詳細は、左記の通りです。

とちぎ花フェスタ 2016 in かぬま

期 間：2016年
 2月27日(土) AM10:00～PM4:00
 28日(日) AM 9:30～PM4:00
 29日(月) AM 9:30～PM3:00

会 場：鹿沼市花木センター

入場料：(前売) 500円
 (当日) 700円

10月度 ホクレン初妊牛市場成績 (単位：千円 (税込))

市場名	開催日	出場頭数	成立頭数	取引率 (%)	平均価格	(そのうちET牛)		
						出場頭数	成立頭数	平均価格
十 勝	10月7日	511	456	89.2	625	79	67	738
南北海道	10月8日	137	111	81.0	598	47	27	726
釧 路	10月14日	241	219	90.9	578	8	7	714
根 室	10月15日	452	391	86.5	589	18	14	754
豊 富	10月16日	283	222	78.4	586	8	3	670
十 勝	10月21日	437	386	88.3	633	71	62	737
北 見	10月28日	348	308	88.5	577	0	0	0
合 計		2,409	2,093	86.9	602	231	180	735
前 月		2,540	2,200	86.6	604	160	128	771
前年同月		2,962	2,133	72.0	536	232	164	679

初妊牛の今後の動向は、来年2月～3月分娩が中心となります。価格については、道内外の大型牧場による導入の影響、道内での搾乳意欲の高さや乳牛更新による自家保留が増えている為、引き続き高値安定で取引されると思われます。各市場においては通常行われないような遠慮での荷動きが発生しつつありますので、導入を希望される方は分娩腹の条件、価格等に十分余裕をもってお申し込み下さいませよう、宜しくお願い申し上げます。

10月度 県内家畜市場成績 (単位：円 (税込))

市場名	種 別	出場頭数	成立頭数	平均体重	最 高	最 低	平 均	前回比
	F 1 雄	152	152	59	332,640	140,400	246,318	▲6,715
	F 1 雌	105	104	57	257,040	89,640	182,177	▲4,159
館 (10/27)	ホルス雄	0	0	0	0	0	0	▲72,360
	F 1 雄	12	12	96	359,640	114,480	287,550	▲28,350
	F 1 雌	15	15	93	274,320	151,200	235,512	▲13,428

素牛相場や枝肉相場等の動向で価格も影響しますが、今回の初生牛の取引価格は前回から比較し、低値相場で推移しています。しかしながら月全体で見るとゆるやかな上昇傾向にあり、今後も強含みにて推移すると思われます。

